

# デーヴォ ガイド



**2022.1.10-16**

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合いましょ。 (2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょ。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い (なるべく短く)
- ④預言の祈り (主の御心を宣言して祈り) をします。

## セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合いましょ。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょ。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか? (または誉めたいですか?) 1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょ。

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは? (信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか? (感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか? (あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

2:41 さて、イエスの両親は、過越の祭りに毎年エルサレムに行った。

2:42 イエスが十二歳になられたときも、両親は祭りの慣習に従って都へ上り、

2:43 祭りの期間を過ぎてから、帰路についていたが、少年イエスはエルサレムにとどまっておられた。両親はそれに気づかなかった。

2:44 イエスが一行の中にいるものと思って、一日の道のりを行った。それから、親族や知人の中を捜し回ったが、

2:45 見つからなかったので、イエスを捜しながら、エルサレムまで引き返した。

2:46 そしてようやく三日の後に、イエスが宮で教師たちの真中にすわって、話を聞いたり質問したりしておられるのを見つけた。

2:47 聞いていた人々はみな、イエスの知恵と答えに驚いていた。

2:48 両親は彼を見て驚き、母は言った。「まあ、あなたはなぜ私たちにこんなことをしたのです。見なさい。父上も私も、心配してあなたを捜し回っていたのです。」

2:49 するとイエスは両親に言われた。「どうしてわたしをお捜しになったのですか。わたしが必ず自分の父の家にいることを、ご存じなかったのですか。」

2:50 しかし両親には、イエスの話されたことばの意味がわからなかった。

2:51 それからイエスは、いっしょに下って行かれ、ナザレに帰って、両親に仕えられた。母はこれらのことをみな、心に留めておいた。

2:52 イエスはますます知恵が進み、背たけも大きくなり、神と人ともに愛された。

神学は、単に思想や理念ではなく、現実のことでした。それがこのようなエピソードに表わされているのです。

イエス様の知恵は驚くようなものでしたし、その行動には両親も理解しがたい部分があったのは当たり前のことですが、イエス様はあくまでも子どもとして両親を敬いつつ接していることがわかります。

信仰的にすぐれた人は、決して自分をすぐれていると主張したりしません。むしろその信仰のゆえに謙遜なのです。それはイエス様から学ぶことです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



3:1 皇帝テベリオの治世の第十五年、ポンテオ・ピラトがユダヤの総督、ヘロデがガリラヤの国主、その兄弟ピリポがイツリヤとテラコニテ地方の国主、ルサニヤがアビレネの国主であり、

3:2 アンナスとカヤパが大祭司であったころ、神のことばが、荒野でザカリヤの子ヨハネに下った。

3:3 そこでヨハネは、ヨルダン川のほとりのすべての地方に行って、罪が赦されるための悔い改めに基づくバプテスマを説いた。

3:4 そのことは預言者イザヤのことばの書に書いてあるとおりである。「荒野で叫ぶ者の声がする。『主の道を用意し、主の通られる道をまっすぐにせよ。』」

3:5 すべての谷はうずめられ、すべての山と丘とは低くされ、曲がった所はまっすぐになり、でこぼこ道は平らになる。

3:6 こうして、あらゆる人が、神の救いを見るようになる。』」

ピラトなど歴史上著名な人物が並びます。しかし、彼らは脇役であり、敵役でもあつたりします。神様から見れば、すなわち永遠の価値観から言えば、スポットが当てられているのは、貧しく無名に見えるヨハネです。

それは現代でも同じです。人間の間で有名であることは、神様の前では何の意味もありません。もしかしたらその名声が用いられることもあるかもしれませんが、それは用いられることに意味があるのです。

有名になるよりも、主のみこころを行う者が、真の主役なのです。そのことを志し、永遠の神の記憶において名前が記されるものとなりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ▶12日 水曜

ルカ



3:7 それで、ヨハネは、彼からバプテスマを受けようとして出て来た群衆に言った。「まむしのすえたち。だれが必ず来る御怒りをのがれるように教えたのか。

3:8 それならそれで、悔い改めにふさわしい実を結びなさい。『われわれの先祖はアブラハムだ。』などと心の中で言い始めてはいけません。よく言うておくが、神は、こんな石ころからでも、アブラハムの子孫を起こすことがおできになるのです。

3:9 斧もすでに木の根元に置かれています。だから、良い実を結ばない木は、みな切り倒されて、火に投げ込まれます。」

3:10 群衆はヨハネに尋ねた。「それでは、私たちはどうすればよいのでしょうか。」

3:11 彼は答えて言った。「下着を二枚持っている者は、一つも持たない者に分けなさい。食べ物を持っている者も、そうしなさい。」

3:12 取税人たちも、バプテスマを受けに来て、言った。「先生。私たちはどうすればよいのでしょうか。」

3:13 ヨハネは彼らに言った。「決められたもの以上には、何も取り立ててはいけません。」

3:14 兵士たちも、彼に尋ねて言った。「私たちはどうすればよいのでしょうか。」ヨハネは言った。「だれからも、力づくで金をゆすったり、無実の者を責めたりしてはいけません。自分の給料で満足しなさい。」

3:15 民衆は救い主を待ち望んでおり、みな心の中で、ヨハネについて、もしかするとこの方がキリストではあるまいか、と考えていたので、

3:16 ヨハネはみなに答えて言った。「私は水であなたがたにバプテスマを授けています。しかし、私よりもさらに力のある方がおいでになります。私などは、その方のくつのひもを解く値うちもありません。その方は、あなたがたに聖霊と火とのバプテスマをお授けになります。」

3:17 また手に箕を持って脱穀場をことごとくきよめ、麦を倉に納め、殻を消えない火で焼き尽くされます。」

3:18 ヨハネは、そのほかにも多くのことを教えて、民衆に福音を知らせた。

3:19 さて国主ヘロデは、その兄弟の妻ヘロデヤのことに、また、自分の行なった悪事のすべてを、ヨハネに責められたので、

3:20 ヨハネを牢に閉じ込め、すべての悪事にもう一つこの悪事を加えた。

ヨハネはイエス様が世に現れる道備えをしました。そのために命をかけたが、あくまでも自分は脇役でイエス様が盛んになることのみを求めました。そのような人が主の書に記されるのです。

私たちの生き方も同じです。自分が目立ったりほめられたりする必要はありません。また成功する必要もありません。神様のみこころを行うことにのみ集中しましょう。それが喜びであり、結果的には主からの栄誉をいただくことになるのです。

イエス様の十字架と復活という救いの出来事が成就する前である、このヨハネのバプテスマの意味は、あくまでも悔い改めです。しかしイエス様は「聖霊と火とのバプテスマ」をお授けになりました。すなわち聖霊とは新しく生まれた者に与えられる聖霊のきよめと賜物であり、また火とは罪を焼き尽くし滅ぼすさばきときよめです。

ヨハネのバプテスマは悔い改めだけではありませんが、私たちもイエス様を信じたことによって、イエス様とともに死んだのですから、ヨハネの言

うような悔い荒めの実を結びましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ▶13日 木曜

### ルカ

3:21 さて、民衆がみなバプテスマを受けていたころ、イエスもバプテスマをお受けになり、そして祈っておられると、天が開け、  
3:22 聖霊が、鳩のような形をして、自分の上に下られるのをご覧になった。また、天から声がした。「あなたは、わたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ。」

3:23 教えを始められたとき、イエスはおよそ三十歳で、人々からヨセフの子と思われていた。このヨセフは、ヘリの子、順次さかのぼって、

3:24 マタテの子、レビの子、メルキの子、ヤンナイの子、ヨセフの子、

3:25 マタテヤの子、アモスの子、ナホムの子、エスリの子、ナンガイの子、

3:26 マハテの子、マタテヤの子、シメイの子、ヨセクの子、ヨダの子、

3:27 ヨハナンの子、レサの子、ゾロバベルの子、サラテルの子、ネリの子、

3:28 メルキの子、アデイの子、コサムの子、エルマダムの子、エルの子、

3:29 ヨシュアの子、エリエゼルの子、ヨリムの子、マタテの子、レビの子、

3:30 シメオンの子、ユダの子、ヨセフの子、ヨナムの子、エリヤキムの子、

3:31 メレヤの子、メナの子、マタタの子、ナタンの子、ダビデの子、

3:32 エッサイの子、オベデの子、ボアズの子、サラの子、ナアソンの子、

3:33 アミナダブの子、アデミンの子、アルニの子、エスロンの子、パレスの子、ユダの子、

3:34 ヤコブの子、イサクの子、アブラハムの子、テラの子、ナホルの子、



3:35 セルグの子、レウの子、ペレグの子、エベルの子、サラの子、  
3:36 カイナンの子、アルパクサデの子、セムの子、ノアの子、ラメクの子、  
3:37 メトセラの子、エノクの子、ヤレデの子、マハラレルの子、カイナンの子、  
3:38 エノスの子、セツの子、アダムの子、このアダムは神の子である。

イエス様は罪のない方なのに、罪ある身の立場を取られて、悔い改めのバプテスマをお受けになりました。イエス様を信じて従う者も、同じように不利な立場に置かれることがあります。それも主のためであるなら、甘んじて受けることは、イエス様と同じ扱いを向けることであり、光栄なことなのです。

私たちは時には立場が悪くなるような状況があります。そのようなとき、自分の弁解をするよりも、イエス様の御思いを知ることは、喜びではないでしょうか。御父は「あなたは、わたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ。」と言ってくださいます。

ルカの系図により、イエス様王の子孫であることがわかります。さらには遡って、アダムの子であることが記されていますが、これは神であるイエス様が同時に全き人間であったことを表わしています。

イスラエルの王として生まれた方が、同時に全人類の罪を身代わりにならされた人であるというのは、このように歴史に現れた神様のご意思であったのです。歴史の主権者である主の前にひれ伏すと共に、その主権によって救われたことを思い、感謝と信頼で従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





4:1 さて、聖霊に満ちたイエスは、ヨルダンから帰られた。そして御霊に導かれて荒野におり、

4:2 四十日間、悪魔の試みに会われた。その間何も食わず、その時が終わると、空腹を覚えられた。

4:3 そこで、悪魔はイエスに言った。「あなたが神の子なら、この石に、パンになれと言いつけなさい。」

4:4 イエスは答えられた。「人はパンだけで生きるのではない。・と書いてある。」

4:5 また、悪魔はイエスを連れて行き、またたくまに世界の国々を全部見せて、

4:6 こう言った。「この、国々のいっさいの権力と栄光とをあなたに差し上げましょう。それは私に任されているので、私がこれと思う人に差し上げるのです。」

4:7 ですが、もしあなたが私を拝むなら、すべてをあなたのものとしましょう。」

4:8 イエスは答えて言われた。「『あなたの神である主を拝み、主にだけ仕えなさい。』と書いてある。」

4:9 また、悪魔はイエスをエルサレムに連れて行き、神殿の頂に立たせて、こう言った。「あなたが神の子なら、ここから飛び降りなさい。」

4:10 『神は、御使いたちに命じてあなたを守らせる。』とも、

4:11 『あなたの足が石に打ち当たることのないように、彼らの手で、あなたをささえさせる。』とも書いてあるからです。」

4:12 するとイエスは答えて言われた。「『あなたの神である主を試みてはならない。』と

言われている。」

4:13 誘惑の手を尽くしたあとで、悪魔はしばらくの間イエスから離れた。

4:14 イエスは御霊の力を帯びてガリラヤに帰られた。すると、その評判が回り一帯に、くまなく広まった。

4:15 イエスは、彼らの会堂で教え、みなの人にあがめられた。

イエス様も人間として体を持たれたので、誘惑に会いました。その一つ一つに打ち勝って、メシヤとしての働きを全うなさったのです。私たちにも誘惑に勝つ力が与えられていることを知みましょう。

石をパンに変えるなら、人々は物質的な面でイエス様を賞賛して従ったでしょう。しかしイエス様はそのような方法で人心を得ようとはなさいませんでした。あくまでも貧しい生涯によって、人々の苦勞をなめて、愛の救い主として十字架の贖いを全うなさったのです。

この世の権力と栄光を得るなら、イエス様は人々を力で打ち負かして動かし、思いのままにすることができたでしょう。しかしイエス様は人の心に新しい信仰と愛を与えられました。決して力づくではなく、救われた者に働く聖霊によって真心から動く人によって、神の国の拡大をさなされたのです。

神殿の頂から降りるなら、救い主はそのような現れ方をすると信じていた当時の人々を、簡単に信じさせることができたでしょう。しかしイエス様は謙遜になって罪を認め神を認める心に、信じられるようになされたのです。

主イエスの尊い決断に感謝するとともに、自分自身もそのような価値観で生きるように決断しましょう。それが万物を創造なさった絶対的權威をお持ちの神の価値観だからです。それが本当の解決であり、勝利への唯一の道であることを知みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



4:16 それから、イエスはご自分の育ったナザレに行き、いつものとおり安息日に会堂にはいり、朗読しようとして立たれた。

4:17 すると、預言者イザヤの書が手渡されたので、その書を開いて、こう書いてある所を見つげられた。

4:18 「わたしの上に主の御霊がおられる。主が、貧しい人々に福音を伝えるようにと、わたしに油を注がれたのだから。主はわたしを遣わされた。捕われ人には赦免を、盲人には目の開かれることを告げるために。しいたげられていない人々を自由にし、

4:19 主の恵みの年を告げ知らせるために。」

4:20 イエスは書を巻き、係の者に渡してすわられた。会堂にいるみな目の目がイエスに注がれた。

4:21 イエスは人々にこう言って話し始められた。「きょう、聖書のこのみことばが、あなたがたが聞いたとおり実現しました。」

4:22 みなイエスをほめ、その口から出て来る恵みのことばに驚いた。そしてまた、「この人は、ヨセフの子ではないか。」と彼らは言った。

4:23 イエスは言われた。「きつとあなたがたは、『医者よ。自分を直せ。』というたとえを引いて、カペナウムで行なわれたと聞いていることを、あなたの郷里のここでもしてくれ、と言うでしょう。」

4:24 また、こう言われた。「まことに、あなたがたに告げます。預言者はだれでも、自分の郷里では歓迎されません。

4:25 わたしが言うのは真実のことです。エリヤの時代に、三年六か月の間天が閉じて、全

国に大ききんが起きたとき、イスラエルにもやもめは多くいたが、

4:26 エリヤはだれのところにも遣わされず、シドンのサレプタにいたやもめ女にだけ遣わされたのです。

4:27 また、預言者エリシャのときに、イスラエルには、らい病人がたくさんいたが、そのうちのだれもきよめられないで、シリヤ人ナアマンだけがきよめられました。」

4:28 これらのことを聞くと、会堂にいた人たちはみな、ひどく怒り、

4:29 立ち上がってイエスを町の外に追い出し、町が立っていた丘のがけのふちまで連れて行き、そこから投げ落とそうとした。

4:30 しかしイエスは、彼らの真中を通り抜けて、行ってしまわれた。

イザヤ書は救い主の出現と生涯について多く書かれています。イエス様こそがその約束された方であるというのが、ユダヤ人にとっての福音理解でした。ですからイエス様は「きょう、聖書のこのみことばが、あなたがたが聞いたとおり実現しました。」と宣言なさったのです。

しかし多くの人々は「ヨセフの子ではないか」と、イエスなどただの人だとして受け入れませんでした。そこでイエス様は、歴史におけるイスラエルの不信仰を例に出して、彼らの不信仰を指摘なさったのです。

イエス様でさえその宣教は、拒絶と偏見の中でなさったのです。私たちはそのような状況を恐れすぎているかも知れません。もしもイエス様やこれまでのクリスチャンたちが、拒絶や偏見を恐れていたなら、私たちは救われていなかったでしょう。今よりも少し勇気を出して行動してみましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





4:31 それからイエスは、ガリラヤの町カペナウムに下られた。そして、安息日ごとに、人々を教えられた。

4:32 人々は、その教えに驚いた。そのことばに権威があったからである。

4:33 また、会堂に、汚れた悪霊につかれた人がいて、大声でわめいた。

4:34 「ああ、ナザレ人のイエス。いったい私たちに何をしようというのです。あなたは私たちを滅ぼしに来たのでしょうか。私はあなたがどなたか知っています。神の聖者です。」

4:35 イエスは彼をしかって、「黙れ。その人から出て行け。」と言われた。するとその悪霊は人々の真中で、その人を投げ倒して出て行ったが、その人は別に何の害も受けなかった。

4:36 人々はみな驚いて、互いに話し合った。「今のおことばはどうだ。権威と力とでお命じになったので、汚れた霊でも出て行ったのだ。」

4:37 こうしてイエスのうわさは、回りの地方の至る所に広まった。

4:38 イエスは立ち上がって会堂を出て、シモンの家にはいられた。すると、シモンのしゅうとめが、ひどい熱で苦しんでいた。人々は彼女のためにイエスにお願いした。

4:39 イエスがその枕もとに来て、熱をしっかりとつけられると、熱がひき、彼女はすぐに立ち上がって彼らをもてなし始めた。

4:40 日が暮れると、いろいろな病気で弱っている者をかかえた人たちがみな、その病人をみもとに連れて来た。イエスは、ひとりひとりに手を置いて、いやされた。

4:41 また、悪霊どもも、「あなたこそ神の子です。」と大声で叫びながら、多くの人から出て行った。イエスは、悪霊どもをしかって、ものを言うのをお許しにならなかった。彼らはイエスがキリストであることを知っていたからである。

4:42 朝になって、イエスは寂しい所に出て行かれた。群衆は、イエスを捜し回って、みもとに来ると、イエスが自分たちから離れて行かないよう引き止めておこうとした。

4:43 しかしイエスは、彼らにこう言われた。「ほかの町々にも、どうしても神の国の福音を宣べ伝えなければなりません。わたしは、そのために遣わされたのですから。」

4:44 そしてユダヤの諸会堂で、福音を告げ知らせておられた。

旧約聖書には救い主のわざについて預言されています。その中で悪霊を追い出すということも表わされていて、それはこの世の全ての霊に優る方であるという意味です。

神様は今も変わらないお方です。私たちや私たちの周りに悪霊に苦しめられたり、惑わされたりする人がいたら、イエス様の権威によって悪霊を追い出し、縛ることができるのです。

またペテロのしゅうとめのように、癒されてイエス様のために働く人が多数います。私たちも恵を受けたことを忘れずに、主のために働いて恩返しをしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたの中の部分を主は抜おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

